



SSKU

脳損傷・高次脳機能障害

# サークルエコー

VOL.53(2013年9月)



(写真) 左: ダイさん 熊本で(P6)、右上: カオさん 仙台へ(P8)、右下: 田川家で実ったパプリカ(P8)

## サークルエコーは . . . . .

事故や病気によって脳に損傷を受けると、新しいことが覚えにくくなったり、意欲が低下したり、感情のコントロールが難しくなるなどのため、社会生活の様々な場面で問題が生じることがあります。このような後遺症を高次脳機能障害といいます。目に見えにくい障害のため、社会の理解を得にくいこと、したがって現行の福祉制度を利用することが難しい点が大きな問題となっています。

サークルエコーは、高次脳機能障害をとりまく問題の中で、特に、日常生活にも援助が必要な人たちの問題に取り組んでいます。

ブログ <http://circleecho.blog.fc2.com/>

ホームページ <http://www.circle-echo.com/>

(会報がカラーで見られます)

## 目 次

- ・心のファイル:  
見えてきた明かりを辿って(1) . . . . . 2
- ・2013年 夏の出来事:
  - わが家の夏休み、熊本5人旅 . . . . . 6
  - 個展を開いてご覧と . . . . . 8
  - どこへいった～ . . . . . 8
  - 旅の収穫～仙台4人旅～ . . . . . 9
- ・コラム:  
65才になるということ(3) . . . . . 10
- ・行事&会合報告 . . . . . 11

- ・発行: サークルエコー
- ・〒206-0824 稲城市若葉台3-1-1  
ワルツの杜C-405 田辺方
- ・電話: 042-350-3292
- ・E-mail: [kako.m.d.t.1201@nifty.com](mailto:kako.m.d.t.1201@nifty.com)

## 見えてきた明かりを辿って(1)

東京都大田区 Y・K

主人が突然会社で倒れて、4年余りたちます。出勤直後に心室細動を起こし、心肺停止の状態、救急車で病院に搬送されました。

意識不明の状態は10日続きました。覚醒が遅いので、一時は植物状態になる可能性も高いとも告げられましたが、その後徐々に覚醒し、2か月間入院しました。

意識は戻ってきましたが、低酸素脳症による高次脳機能障害の症状は避けられず、病院からリハビリ病院を紹介していただき、転院。ICD（自動除細動器）の植え込み手術の為に一時、他の病院への転院も含めて、3か月リハビリをしていただき、退院。退院後はリハビリ病院への通院や地域の障害者福祉施設等でリハビリのお世話になりながら、1年3か月自宅療養し、倒れてから1年8か月後に会社に復職させていただき、現在にいたっています。

### ■ 現実のことと言い聞かせて

突然倒れて心肺停止状態と連絡を受けてから、主人の母や、私の妹に電話で知らせ、心配してついてきてくれた姪と搬送された病院に向かいました。その途中、電車が遅れていたの、タクシーに乗ったら今度は道が混んでなかなか進まず、また駅に引き返して電車に乗り込むと、緊急に家族の同意が欲しいとお医者さんから携帯に電話が入りました。“これは夢ではない、現実の事なんだ”と自分に言い聞かせながら、とにかく早く早く行かなければと思ったこと、父の異変の知らせを受け、登校したばかりの学校から叔母とともに病院に駆け付けた息子・・・場面、場面を思い起こす時、今でも辛くなってきました。

搬送先の病院の先生からは、「最大推定心肺停止時間は約30分で、決して短い時間とは言えない

が、脳CT検査の結果、脳低温療法を試みてみようと思っている。その治療にはリスクも伴う。」というような説明を受けました。

脳低温療法とは、薬を使って体温を34度まで下げ、心肺停止になったために低酸素状態になり、ダメージを負った脳を低温に保ち、それ以上ダメージが広がるのを防ぐ目的があるとのことでした。34度に保つてからは、1日で1度体温を上げて数日かけて平熱に戻していくが、体温を下げることによって免疫力も低下するため、肺炎を起こしたり、感染症にかかるリスクも分かりました。

しかし、“少しでも良くなる可能性があるなら”と迷うまでもなく治療をお願いしました。

低温治療を施していただいてから、集中治療室で初めて、意識なくこんこんと眠り続ける主人と面会しました。額に手をやると、本当にぞっとするほど冷たく感じられました。傍らで言葉もなく父を見守る息子のためにも、何としても回復してほしいと願わずにいられませんでした。

1週間たっても意識が戻らず、先生から、「完全にデータが出そろったわけではないが、覚醒がちょっと遅すぎるので植物状態になる可能性が高い。」というお話がありました。「医学的にはそうなのかもしれないけれど、家族は意識が戻ってくれることを諦めることはできません。」とお伝えすると、「もちろんです。我々もその為に頑張っています。」とおっしゃってくださいました。

10日が過ぎた頃、「鼻や口からチューブを入れていると本人にも負担だろうから、呼吸を楽にするために、気管切開をしましょう。」ということになり、気管切開をしていただいてから、ようやく目を開けるようになりました。と言っても、話しかけても答えてくれるわけではなく、うすくあいた瞼から黒目が少し見える程度で、これを意識

が戻ったと言っているのかわかりませんでした、でもそれまではずっと閉じて開くことのなかった瞼が開いたのです。

そして徐々に目を開けている時間が長くなってきました。「手を握ってください。」などの先生の指示にもだんだん応えられるようになってきました。

しかし、まだ集中治療室で、栄養もすべてチューブから、呼吸も自力呼吸だけでは足りず機械のお世話にもなっていましたし、もちろん動くこともできない状態でした。気管切開しているのに、言葉を発することはできません。それでも、「痛くない？」と尋ねると、「イタクナイ！」と言っているような口の動きをするようになってきました。後で思いかえしてみると、目の動きがやけにハイテンションにくるくるとしているな、と思った覚えがあります。

こうなると、早く実際に話ができるようになるという思い、声が出るようにスピーチカニューレを使用していただきました。「最初に、どんな会話をしよう」と楽しみに病室に向かったのですが、病室に入った時に目にとびこんだのは、「そんなのでたらめでしょ。」という驚くようなことを一人で話している主人の姿でした。

## ■ 時空をさ迷っているかのように

先生方や看護師さん方の昼夜を問わぬ手厚い治療によって、幸いにも命を取り留めることができ、本当に感謝してもしきれません。あの日「たとえ、植物状態になっても、パパに生きていてもらいたいんだよね。」と言う私に、涙を見せまいと下を向き、黙ってうなづく息子の姿を思い出すたび、心からそう思います。

ただ、高次脳機能障害という聞きなれない後遺症は残ってしまいました。倒れてから17日目には、気管切開も閉じられ、食事も普通にとれるようになりました。正確には、切開した箇所を詰めてある消毒ガーゼを、抜いてはいけなくて何回言っても抜いてしまい、予定より少し早めに閉じら

れることになったのです。

もうこの頃には、主人の言動がかなりおかしいと、私にも、はっきりとわかってきました。取ってはいけなくて何回言っても、治療のために身体につけてある点滴用の針などを抜こうとしたり、心電図などの医療器具を、引きはがしてしまう。何度看護師さんに付け替えていただいたことか。仕方なく、頑丈なミトンをはめましたが、それを歯で、なんとか、はずそうとする。「歯が欠けてしまったら大変だから、やめて・・・」と何度も主人に訴えていました。

また、短時間息を止めておく、という事ができず、必要な検査が受けられない。絶対にそんなことはありえない話を、自分が経験したことのように話す。自分は、20歳だ、30歳だと言い、なかなか、「今」の記憶が出てこない・・・自分は20歳と言った時には、自身で思い込んでいる年齢以降の記憶は意識にのぼっていないみたいに感じられました…それが、時に32歳になったり、24歳になったり。しかし、「今」の職場の方がお見舞いに来て下さると、顔を見て、名前が出てくる方もいる。いったい主人の頭の中はどうなってしまったのか、まるで、タイムトラベラーになって、ふらふらと時空をさ迷っているように思えました。

結婚して息子がいることも、ちゃんとわかっているように思える時もあれば、「やあ、〇〇君、弟は元気？」と見舞いに来た我が子を、学生時代の友人か誰か？と思い込んで話しかける。もちろん、〇〇は息子の名前ではありません。何と返事をしたらいいかと戸惑いの表情を浮かべる息子。

やっと命の危機が去ったと安堵した直後に、そんなこんな父の姿を見なければならぬことは、中2の息子にとっては酷な経験だと私には思いましたが、主人にも私にも、何か不平不満をぶつけることもない。私自身、主人が集中治療室にいた間に、何日も下痢が止まらなくなったり、一般病室に移ってからも、きっかけは風邪だと思いますが、微熱が下がらない日が続いたり、体調がおかしくなったこともあったので、ひょっとしてストレスを抱え込んでいないだろうか心配になり



ました。

後になって息子に聞くと、「学校に行くと、クラブや部活の友人達が、おまえも大変だったな、とさりげなく気遣い、今までと同じように普通に接してくれた。友人達と学校で普段通りに過ごすことで自分は癒されていたから大丈夫だった。」と答えました。息子が、落ち着いてくれたのが、私にとって一番の救いでした。お友達に、感謝です。

## ■ 以前と違う主人、つる不安

主人は、食事は自分でできましたが、食べ方がおかしい・・・料理ごとに別々の器に盛って出された食べ物を何もかもすべて一つの器に入れて食べたり、さやのついたままの枝豆の入った器を、器ごと口に持っていき、そのまま口に流し込もうとしたり・・・「ご主人は、今、自分が何を食べているか、わかっていないのだと思います。」と看護師さんがおっしゃいました。

歩行できるようになってくると、徘徊が始まりました。入院している病棟は、円形になっていて、真ん中のナースステーションを取り囲むように廊下があり、その廊下を取り囲むように病室が並んでいるという配置でした。病室を抜け出して、ぐるぐると廊下を何週も回る。まだ、足元が危ないので転ぶと大変だし、病棟から外に出てしまっても大変なので、徘徊する主人には誰かが一緒についてまわっていました。昼も夜も、何かにつき動かされるように、歩き始める。

「ご主人は、私たちよりも運動量が多いかもしれません。」と看護師さん。本当にご面倒をおかけしたと思います。ある日、徘徊する主人の後を追って、「もういい加減病室に戻ろうよ。」と私が言うと、「ないんだよ。見つからないんだよ。」と主人がイライラしながら言います。非常階段のドアを開けそうになったので、「そこは非常階段だから開けたらだめ。いったい何がないの？」と訊くと「バスの集合場所が見つからない。スキーバスの集合はどこなんだ。」「ここは病院だし、今は初夏、

スキーの季節ではないよ。」と私は言いながら、小学生だった息子を主人がスキーに連れて行った時に撮影したビデオを主人に見せたことを思い出しました。写真やビデオを時系列で見せると記憶が戻りやすくなるかもしれない、と教わったので、主人の記憶に残っていそうな写真やビデオを持ち出し、病室で見せていたのです。でも、息子と行った時は、スキーバスは使いませんでしたから、学生時代にスキーに行った記憶などが混ざり合っていて、そんな幻覚を見ているのかもしれない。

…幻覚を見ること自体、尋常ではありませんが、周囲には突飛に見える行動も、主人の頭の中では何か意味を持っているのかもしれない、と思えてきました。先生に、主人はどうなっているのかと伺ったところ、「脳の血流が今までと全然違う状態になってしまって、ご主人自身が戸惑っている。慣れてもらうしかないのです。」とのことでした。その他色々、倒れる前の主人には、考えられないような言動の数々。いったいこの先どうなるのかと、主人や今後の生活への心配や不安ばかりが募る時、その状況を見かねた妹が高次脳機能障害について調べて、本でサークルエコーがあることを知りました。私は介助に追われていたので、妹が相談をして私にいろいろ教えてくれたのです。田辺さんやエコーの皆さんのお話を伺い、大変な状況なのに、こんなにも前向きに頑張っている方が大勢いるのだ、と励まされました。

## ■ ICD（体内自動除細動器）植え込み手術を経て本格的にリハビリへ

急性期の病院では、歩行訓練、計算、そして字を読むことはできましたが、書く方がなかなかできなかつたため字を書く訓練等のリハビリをしていただきました。ですが、急性期も過ぎ、回復期リハビリ病院に転院した方がいいとの判断で、転院することになりました。徘徊のある患者を受け入れてくださる病院は少ないということでしたが、ソーシャルワーカーさんが受け入れ先を見つけてくださいました。

リハビリ病院に転院して、先生とのお話の中で、リハビリに専念する為に、元々の原因となった心室細動に対して、ICD を植え込んだ方がいいかどうか問題になりました。前の病院にいる時から、なぜ、心室細動を起こしたのか原因がよくわからなかったのが、高次脳機能障害を負ってしまった主人が、ICD を理解できるか、電磁波などを避けなければなりません、そういったリスクに対処できるか等々を考えると、植え込むリスクの方が植え込まないリスクよりも大きいのではないかとされていました。

当初、医療器具なども引き抜いてしまう等の心配があり、今の主人の状態です。植え込み手術を受けられるのかも含め、どうしたらいいものか迷い悩みました。ですが、この時も田辺さんから、ICD を植え込んでいる方のご家族を紹介していただき、電話で色々教えていただくことで植え込む決心がつかしました。既に経験されている方のお話はとても頼もしく、有難いものだと思います。

そして、リハビリ病院から、ICD の植え込み手術を引き受けてくださった病院に一時転院し、無事植え込み手術終了後にまたリハビリ病院に戻りました。植え込み手術していただいた病院では、今も定期的な検診でお世話になっています。また、こちらの病院のソーシャルワーカーさんに、ICD 植え込みによる身体障害者手帳の申請等のアドバイスをいただきました。

リハビリ病院では、PT、OT、ST、心理の各先生からリハビリも受けました。病院で組んでいたスケジュールに従って、1日1日を過ごしていきました。この頃には自分の実年齢や、息子や私の存在もちゃんとわかるようになっていました。

しかし、徘徊や突飛な行動も引き続きあり、病棟の看護師さんに、やはり相当ご迷惑をおかけしてしまいました。

(続く)

## 週刊 高齢者住宅新聞でエコーが紹介されました

6月10日、週刊 高齢者住宅新聞の川崎記者からエコーの活動に関する取材を受けました。7月3日に記事が掲載され、低酸素脳症等に起因する重度の高次脳機能障害者は生活支援につながりにくい現状、会報発行や合宿等の活動が紹介されています。



### 2013年10月～12月 活動予定

- えこーたいむ・・・10/26、11/23、12/28
- エコー合宿・・・10/15～16（三浦海岸）
- 多摩エコー・・・随時
- 地域で共に生きるナノ《三郷市》・・・随時
- サークルフレンズ《瀬戸市》・・・毎週、月曜、水曜、金曜、土曜

## <2013年 夏の出来事>

～「えこーめーる」・Blog 「えこーぶれいす」から～

### ■ わが家の夏休み、熊本5人旅

東京都稲城市 田辺 和子

7月27日から6日間、息子を連れ、長男一家（夫婦+小4女子）と故郷の熊本へ行きました。（息子の）祖父母のいる熊本は、夏休みなどにたびたび訪れて、いとこたちとセミとりなどに興じた思い出の地です。しかし、受傷後、こだわりが強くなったカレは、バス、電車など、公共の乗り物を拒否することが多く、飛行機の旅をさせることは20年間、あきらめていました。

それが、出来ました！！ 長男一家とカレと私、計5人の空の旅。心配したシートベルトの装着も十分な作戦を練っていたおかげで無事成功！ 離陸の瞬間から水平飛行になるまで、前の座席をつかむその手は青ざめていましたが、あとは落ち着いて1時間半の空の旅でした。

熊本の飛行場から、阿蘇の山脈を眺めながら、手配のレンタカーで熊本市内への快適なドライブ。到着した日は、カレの伯父叔母いとこ達とレストランでの宴。中年になったいとこ達のことが分かったかどうか。いとこ達の目にかれはどう映ったか。そして、こういう日がくることを知らずに逝った夫。七回忌の報告の旅でもありました。

2日目は、熊本機能病院で開かれた、高次脳機能障害家族会「ぶらむ熊本」の集まりに参加（次ページで報告）。3日目は私の友人たちとランチ会やドライブ。発症の頃から励まし続けてくれた友人たちは、カレを同行したことをとても喜んでくれました。

4日目には、福岡との県境近くの荒尾市の「CO被害者の会」の清水さんを訪ね（次ページで報告）、その後、世界遺産登録を目指しているという近くの炭鉱跡（万田抗）や資料館を見学しました。

熊本滞在最終日の5、6日目は、阿蘇山へ。動



霧の草原で馬と一緒に

物好きな姪たちと動物公園（カドリー・ドミニオン）で遊んだあと、草千里へ。深い霧に覆われていた草原は、我々が足を踏み入ると、そこから霧が晴れていき、放牧された20頭ほどの馬たちと一緒に我々も湖のほとりへ歩きました。高校時代、ブラジルの牧場で過ごしたことがあるカレは、病気以来の臆病さが消えて何気ない表情で馬たちの中に溶け込んでいました。馬と一家だけの時間をしばし楽しんで、湖をあとに歩きだすと、再び深い霧がたちこめてきて、湖も馬たちも、入れ替わりにやってきた観光客の一团もたちまち見えなくなっていました。

その夜は、阿蘇九重国立公園内にあるファームヴィレッジのドーム型のコテージに泊まり、長男一家と私は、趣向をこらした様々な温泉を交代で楽しみましたが、カレだけはコテージ内のお風呂に。6日間の旅で、体験を見送らせざるを得なかったのは、唯一、この温泉だけ。翌日も体験型のファームランドで、姪たちといろんな冒険をしました。

カレにとってのいろいろな可能性を見せてくれた今回の旅でした。一方、私は、盛夏の3世代/5人旅のあと、日頃の不眠症がウソのように数日間、爆睡しました。



ドーム型のコテージの前で



## 1) 「ぶらむ熊本」の集まりに参加して

この機会に「ぶらむ熊本」さんを見学させていただこうと、会長の一ノ瀬さんに事前に連絡しましたら、「講演をお願いします」になってしまいました。

会場は、熊本市北西部の熊本機能病院につながる地域交流館。図書館やレストランがある明るい建物。この中の市民塾ホールを「ぶらむ熊本」さんは家族会の集まりに、無料で使わせてもらっているそうで

す。当事者や家族、30名余りの中に息子も入れてもらって、私は前へ。息子の受障から今日まで、サークルエコーやTKKの活動のことなどをお話ししました。

皆さんと一緒にランチのあとは、全員が輪になって順に近況報告。若者たちは、現在の仕事のこと、学校のことスポーツのこと、今後はどうしたいなど。楽天的な物言いには、「口ばかりでなく」とお母さんから少し厳しい声も。中国地方から当地の大学に入学してまもなく交通事故にあった女子大生は、このたび、進級を断念し、故郷に帰ることになったそうです。同年代の男性たちから名残りを惜しむ声。お母さんたちからも励ましと惜別の声。「みんなでツアーを組んで会いに行くよ〜」。異郷で事故にあった時、この会の仲間たちの存在はどれほど支えになったことでしょうか。受傷して日が浅く、はじめて参加したご家族もいらっしゃいました。「会長さんに電話していろいろ教えていただきました。この会がなかったら…」と感涙。

私にもマイクがまわってきました。今年10周年を迎えるというこの会、悩みもあることは伺っていましたが、それでも積み上げてこられた歳月の重み、人のつながり。私は、今年度から共同代表という形をとったエコーのことを例にあげて話しました。

「きのうまで健常だった人、支援側にいると思っていた人、関係ないと思っていた人。そういう



ぶらむ熊本の皆さんと

人も障害を負うことがある。そういう時、『教えて。助けて。仲間に入れて』と飛び込んでいける会があるのは、どんなに心強いことか。息子が受傷した当時は、何もなかった。熊本には、ぶらむさんが立ち上がるまで、そういう場はなかった。きのうまで健常者と思っていた人が駆け込んでくる。だから、こういう会は社会資源。今は関係ないと思っている一般の市民にとっても重要な社会資源」。いつも思っていることをあらためて感じて私はそのことを話しました。はじめてこの場に出たわが息子も、皆さんの温かいまなざしの中で、終始リラックス。この夏の貴重な1日でした。11月10日は「高次脳機能障害 ぶらむ熊本10周年式典」。積み上げた10年の重み。少し早いです。おめでとうございます。

## 2) 三井CO被災者の会を訪ねて

30日、福岡県との県境近い熊本県荒尾市の「三井CO被災者の会」事務局長の清水栄子さんを訪ねました。夫の正重さんは、1963年11月9日、死者458名、一酸化炭素中毒患者839名を出した三井炭鉱の炭じん爆発事故の被害者。重い高次脳機能障害をお持ちです。「幼児と同じ」と栄子さんに言われながらも、8年前に病院でお会いし



清水さんのお宅で

たときはハーモニカ演奏を聞かせて下さいました。現在は、経管栄養を受けながら寝たきりで病院生活を送っておられるそうです。他のCO中毒の方々も一様に高齢化が進み、入院患者はこの10年で半減、現在は17名ということでした。脳の病変が理解されるはずもない時代、ニセ患者との偏見もある中、国や企業、さらには組合間の激しい対立を闘ってこられたご家族や関係者の、想像を絶する50年の歴史。高次脳機能障害者をとりまくここ10年の環境の変化。大先輩たちは、ご自分たちの経験がこれからに活かされていくという手ごたえを感じておられるのでしょうか。栄子さんは83才の今も被災者の会の会報をパソコン入力、発送までなさっています。11月には50周年行事が行われるそうです。

## ■ 個展を開いてご覧と

山梨県北杜市 村田 淑子

避暑地でもある小淵沢もすごい暑さです。我が家では今年に入ってから息子の咀嚼障害がひどくなり、一時少し改善して順調に回復するかと期待していましたが、又悪化してしまいました！リハビリ病院でジストニアで口に出た例と説明されましたが、脳外科の担当医の見解は小脳の萎縮による晩期障害と言われています。

同じように脳腫瘍で小脳に放射線治療を受けた青年が10年後に手に障害が出た事から息子も放射線による障害だと説明されました。いずれにしても、改善されなかったら、他の県外の専門医に診察を受けなくてはならないのです。渡邊脩先生が非常勤で診察をしている甲府市にある湯村温泉病院言語聴覚室では初めて見る患者で勉強になると関心を持たれています。京都の病院まで行かなくてはならないようだったら、秋にならないと車椅子を使っても障害のある家族を連れての移動は大変です。

それでも、この夏にあった公募展では初めて入賞候補に上がり、会場に入ってすぐの部屋に展示

されてました！私の方がびっくりしました。明野に転居以来10年目の成果と言えるでしょう。おかげさまで高校時代の絵の先生からも個展を開いてご覧と連絡が有り本人も喜んでます。そんな訳で親の私は絵の整理に追われています。いつ描いたのか裏書きがされていないのですから、大変な作業になりました。やっとこさ片付き私はくたくたになっています

## ■ どこへいった～

神奈川県横須賀市 田川真理子

残暑お見舞い申し上げます。8月ももう終わりですね！暑かった夏もようやく朝晩は少し涼しくなりましたね🌧️昨日は特に暑くて🏠から出ずにいました。今年の夏も母が1人で大事に手入れをしている庭に、野菜がなりました。ゴーヤ、トマト、ナス、パプリカ、ピーマン、キュウリ、などなど。パプリカって、最初は緑色から赤や黄色に変わっていくんですよ～!!

おさむしは、いつものように3時半に風呂を沸かし、4時に🔥へ入りました。自分で風呂に入りたくて沸かすのですが、沸いてから必ず、『風呂、沸いたぞ！おまえ、先に入っちゃえよ～😏』と言います。こちらは、ありがた迷惑で、『自分で沸かしたんでしょー!!早く水飲んで入りなさい👉足拭きタオル持ってってね🔥』と言います。

そして、風呂からあがると雨戸を閉めたり、瞑想にふけったりしています。昨日は5時半に妻からバス停まで迎えにきてとの連絡が入り、娘にトンネルの方のバス停に迎えに行つてと言われ、急いでサンダルを履いて、『バス停な！』と歩いて迎えに行きました。

しばらくして、妻から娘に連絡があり『おさむしを出してくれた？まだ来ないんだけど…』と。娘は『連絡が来た後、すぐに出したよ』と言いました。まもなく妻、帰宅。肝心のおさむしは、どこへ行ったー？と母とつぶやきました。財布も持たないで、サンダルだから、どこか近場に違いな



いと言っていました。団地内なら帰れるでしょう～とも思っていました。段々、夏だから倒れていないか心配になり、バス停の方へ行って見ましたが、いません！まさか、姑の家？電話をするも来ていないと。

さあ、後は団地内にあるスーパーあたりと思っていた頃、とことこと帰ってきたそうで、一安心。途中で会った同級生の親御さんが犬の散歩で団地内を歩いていて、おさむし見なかった？と聞くと見てないよ！わざわざ車で探してくれました。

一人でもおさむしのことを知っていてくれる人がいると安心だなあ～と感じました。帰ってきたおさむしに、どこへ行ってきたのか問いかけると、『おまえがスーパーにいなかった』、『トンネルのバス停ってどこだ？スーパーの近くだろ？』と、頭スイッチが働いてしまったようでした!!どこまで本当なのか分かりませんが、とりあえず、無事に帰って来たので良かったです。

1日中、家にいるのではなく、思わぬ散歩が出来ました🍷

※おさむしのことは当会のブログでも

<http://circleecho.blog.fc2.com/>

## ■ 旅の収穫～仙台4人旅～

愛知県瀬戸市 豊田幸子

台風一過の晴天に恵まれ、家族3人+従姉妹の4人で仙台～蔵王～五色沼6泊7日の東北旅行に出かけました。

息子の転勤先である仙台に行ってみたくて最初に言いだしたのは主人でした。

脳出血の後遺症で足が不自由な主人の希望で、自家用車を太平洋フェリーに乗せての船旅になりました。



親子三人、フェリーで記念撮影



美味しいものが大好きです。大満足でした!

高次脳機能障害で記憶力も乏しく、精神的に不安定な娘を連れての長旅は不安でしたが、穏やかな海と船内でのコンサートなど楽しい時を過ごし、まずまずの滑り出しでした。

2日目は秋保温泉泊（仙台）。料理も温泉もサービスも最高で、グルメな娘は大満足。3日目は待望の蔵王の御釜を見学！紹介記事に「蔵王連峰のダイナミックな山並みを爽快ドライブ。目指すは雲上でエメラルドグリーンに輝く御釜。神秘的湖を眺めた後は、蔵王温泉大露天風呂でゆったりがお勧め。」と書いてありましたが、まさにその通りを体験、気分は最高潮でした。4日目は五色沼見学。「歩きたい！」と健脚な娘の希望もあり、毘沙門沼を皮切りに往復2時間のハイキング。毘沙門沼で待機している主人に時々状況報告しながら、エメラルドグリーンやコバルトブルーに変化する沼めぐりをしました。しかし、この頃になると旅の疲れから娘が不調になり、長旅の不安が出てきました。5日目は念願だった仙台の牛タンを食べ、全員満足して帰路に着きました。

娘の不調もあり思った以上に長旅に感じたこの旅行は、楽しくも波乱にとんだ旅でした。天気にも恵まれ、観光は最高！温泉も最高！で申し分なかったのですが、磐梯吾妻スカイラインでは3メートル先も見えないほどの霧につつまれ、やっとの思いでホテルに着きました。その間、娘は後部座席から「お母さん、がんばって！」と声をかけてくれました。帰りの船は台風の影響で大揺れし、従姉妹と私がダウンするなどのアクシデントもありました。そんな中、娘は、足元のおぼつかない主人を支えてトイレに行ったり、連れ立って食事に行ったりと自分に出来ることを精一杯頑張ってくれました。このことが今回の長旅の1番の収穫でした。

## ■ 65才になるということ（3）

東京都武蔵野市 高橋俊夫

妻は65才になったことから3月から介護保険サービス（デイサービス）を利用し始め、早くも5カ月。この間自立支援法の下でのデイサービスと各々週1日で並行して通所してきました。

そして当初予定通り、6カ月が経過する10月からはすべて介護保険サービスの通所になります。もちろんその前に行政、支援センターとの話し合いの機会が持たれ、確認し合いました。先日はこの話し合いのことも踏まえ午前中だけでしたが見学をさせてもらいました。曜日によって若干雰囲気は異なるようですが静かな環境でいくつかのテーブルに分かれ体操、口腔訓練運動等順にプログラムが進められていました。午後の時間は「趣味活動」「レクリエーション」ということでビーズワーク、水彩画、カラオケ、習字等曜日によって組み合わせを替えて行なっているようです。午後の時間も機会を見て見学したいと思っています。

通所されている個々人の状態・症状はそれぞれです。今まで有った「家族相談会」というよう

なものや設け家族の意見を聞く機会もあつたらとも感じています。本人・家族の意向を少しでも多く汲み取り、本人復活への努力を重ねてもらうことを願っています。今後、ますます高齢化が進む中、限られた予算で、よりシビアなサービスの選択が必要になるとともに、高齢者の経済的負担も増すような傾向にあるようです。

そして家庭内は老々介護となっていくます。訪問介護（身体介護、生活援助）・ショートステイ（短期入所生活介護）などいろいろなサービスがありますが健康維持のための、食事、運動等に留意し、自分で動ける、歩ける体の維持に努め、この先出来るだけ長くこれ以上のサービスを受けなくて済む生活ができるよう努力したいと思っています。

お年寄りの元気の秘密、長寿の秘訣がどこにあるのか、認知症を防ぐにはどうすればよいか等、あちこちの例がテレビ等で紹介されています。また自分の地域にはどんなものがあるのかも知る必要があります。

## TKK ミニ講演会 脳損傷者の人権擁護と生活の質を高める支援 ～クィーンズランド脳損傷協会シナプスの実践～

8月27日、NPO法人東京高次脳機能障害協議会（TKK）は、東京都港区の赤坂区民センターにおいて「脳損傷者の人権擁護と生活の質を高める支援」と題し、オーストラリア・クィーンズランド脳損傷協会「シナプス」の最高責任者ジェニファー・カレン氏ら3名および同協会と連携している精神科医1名による講演会を開催した。TKKは、2007年、当時の同協会の最高責任者、ジョン・ディッキンソン氏を招いて講演会「ここから作ろう支援と啓発」を開催し、それを契機にTKKをNPO化したという、TKKの歴史の上、重要な関わりがある団体である。田辺は、2003年、ケアンズ

旅行中に関係の州立病院に立ち寄り、また、2006年には全国障害者生活支援研究会（サポート研）の一員として調査に訪れた。10年にわたるこのような交流の中で、シナプスは常に、斬新で意欲的な戦略を提示し続けてきた。一昨年の交流会同様、今回も神奈川工科大学教授の小川喜道氏の多大な尽力によりTKKでの講演会が実現した。（田辺）



## サークルエコー行事&会合報告

- 5/25 えこーたいむ：会報印刷・・・武蔵野ブレイス（高橋2、田川3、西田2、仲栄真、高橋マ、寥）  
JD政策会議・・・戸山サンライズ（山崎、田辺）  
相談者応対・・・武蔵境（田辺、山崎）
- 6/07 TKKアプローチ講習打ち合わせ<渡邊修医師、TKK役員>・・・狛江：慈恵第三（田辺）
- 6/08 老人保健施設ヒルトップロマン見学・・・稲城市（田辺、土本さん）
- 6/10 高齢住宅新聞社の取材<川崎記者>・・・若葉台：田辺宅（田辺、山崎）
- 6/10 第11回 難病当事者による難病当事者のための勉強会・・・白金台：明治学院大学（田辺、山崎）
- 6/11 Yさんのお見舞い・病院見学・相談室懇談・・・旭区：あさひの丘病院（田辺、西田）
- 6/12 東京パイロットクラブ寄付金贈呈式・・・南青山会館（田辺）
- 6/14 TKK高次脳機能障害相談・支援室・・・狛江：慈恵第三（田辺）
- 6/16 北多摩南部高次脳機能障害講習会・・・狛江：慈恵第三（田辺、高橋2、山崎、土本氏）  
マリン横須賀・・・久里浜：ゆんるり（田川）
- 6/18 Yさんのお見舞い・・・旭区：あさひの丘病院（西田2、山崎、福島氏）  
会合「エコーのこれから」「Yさんのこれから」・・・若葉台：田辺宅（田辺、山崎、西田2、福島氏）
- 6/21 TKK高次脳機能障害相談・支援室・・・狛江：慈恵第三（高橋）
- 6/22 えこーたいむ・・・稲城市iプラザ（田辺、高橋2、田川2、山崎）
- 6/23 TKK理事会・総会・・・大久保地域センター（田辺、高橋2）
- 6/25 TKK高次脳機能障害相談・支援室・・・狛江：慈恵第三（田辺）
- 6/30 TKK高次脳機能障害相談・支援室・・・狛江：慈恵第三（高橋）
- 7/08 第12回 難病当事者による難病当事者のための勉強会・・・白金台：明治学院大学（山崎）
- 7/09 TKK高次脳機能障害相談・支援室・・・狛江：慈恵第三（高橋）
- 7/12 TKK高次脳機能障害相談・支援室・・・狛江：慈恵第三（田辺）
- 7/12 エコーの新体制等に関する懇談・・・渋谷：ハシユハシユ（赤塚先生、田辺、山崎）
- 7/13 脳科学「脳と記憶のメカニズム」<玉川大学 相原威教授>・・・稲城市（田辺）  
懇談会<山口研一郎医師、柴本氏、土本氏>・・・八重洲：富士屋ホテル（田辺）
- 7/16 TKK高次脳機能障害相談・支援室・・・狛江：慈恵第三（田辺、高橋）
- 7/20 ドリームサロン・懇談<吉岡氏、柴本氏、土本氏>・・・調布：ドリーム・マクドナルド（田辺）
- 7/21 マリン横須賀・・・久里浜：ゆんるり（田川）
- 7/22 第2回練馬区高次脳機能障害者支援連絡会・・・中村橋ケアセンター（山崎）
- 7/24 会計作業・・・若葉台：田辺宅（西田、田辺）
- 7/26 TKK高次脳機能障害相談室・・・狛江：慈恵第三（田辺）
- 7/28 TKK高次脳機能障害のための医療及び家族相談交流会・・・戸山：都心障（高橋2）  
高次脳機能障害家族会「ぶらむ熊本」にて講演・交流会・・・熊本機能病院（田辺2）
- 7/29 賛助会員との懇談・会食<古木さん、内田さん、石橋さん>・・・熊本メルパルク（田辺2）
- 7/30 三井CO共闘の会 清水さん宅訪問・・・荒尾市（田辺5）
- 8/04 医歯薬出版依頼の低酸素脳症論文に関する打ち合わせ・・・若葉台：田辺宅（田辺、山崎）
- 8/11 TKK第2回高次脳機能障害実践的アプローチ講習会・・・新橋：慈恵医大（田辺、山崎、高橋）
- 8/20 TKK高次脳機能障害相談室・・・狛江：慈恵第三（田辺）
- 8/20 居宅介護事業所「ライフケアさんさん」懇談・・・狛江（田辺）
- 8/24 原宿スーパーよさこい祭り参加・見学・・・原宿（谷口3、田辺ア2、西田）
- 8/26 Yさんのカンファ<松崎医師、谷口氏、細野氏、鈴木氏>・・・旭区：あさひの丘病院（西田2、山崎）
- 8/27 TKK脳損傷者の人権擁護と生活の質を高める支援・・・赤坂区民センター（田辺、山崎）
- 8/30 医歯薬出版『Journal of Clinical Rehabilitation』に論文提出・・・（山崎、田辺）
- 9/03 TKK高次脳機能障害相談・支援室・・・狛江：慈恵第三（高橋）
- 9/08 TKK港区講演会及び医療&家族相談交流会・・・高輪区民センター（高橋2）
- 9/08 マリン横須賀・・・久里浜：ゆんるり（田川）
- 9/10 TKK高次脳機能障害相談・支援室・・・狛江：慈恵第三（田辺）
- 9/13 府中地域生活支援センターあけぼの主催の講演打ち合わせ・・・若葉台：田辺宅（田辺）
- 9/15 東京都言語聴覚士会主催 言語聴覚の日講演会・・・飯田橋：日本歯科大学生命歯学部（田辺、土本氏）
- 9/20 交通安全ビデオ制作の打ち合わせ<斉藤プロダクション>・・・若葉台：田辺宅（田辺）
- 9/21 全国老人福祉研究会・・・西巣鴨：大正大学（山崎）
- 9/22 打ち合わせ「合宿」「役割分担と引き継ぎ等」・・・若葉台：田辺宅（田辺、西田2、山崎）
- 9/24 JD政策委員会・・・新宿区立障害者福祉センター（山崎）
- 9/25 東京都議会自由民主党ヒアリング・・・新宿：東京都庁（田辺）  
社会福祉事業の在り方検討会・・・新宿：日本障害者センター（山崎）
- 9/26 日本共産党 障害者・患者団体との懇談会・・・永田町：衆議院第一議員会館（田辺、山崎）  
東京都社会福祉協議会・・・飯田橋：セントラルプラザ（田辺、山崎）  
東京都ボランティアセンター訪問・・・飯田橋：セントラルプラザ（田辺、山崎）



## <お知らせ>

### ●第3回 高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会(全3回シリーズ)

- ・主催: NPO 法人東京高次脳機能障害協議会(TKK)
- ・日時: 2013年12月8日(日)、10時45分～
- ・会場: 東京慈恵会医科大学西新橋校大学1号館
- ・受講料: 1回3,500円
- ・講師: 橋本圭司氏、先崎章氏、和田敏子氏、長谷川幹氏
- ・詳細、申込方法、受講料の振込先など詳細は <http://www.brain-tkk.com>



ご支援ありがとうございました。



2013年5月～2013年9月までにご寄付、賛助会員費をお寄せくださった方々です。(順不同、敬称略)

関 君子 森 春夫 吉田 道子 粉川 靖子 稲垣 克巳 高橋 八代江 馬屋原 誠司  
 森 節子 西 勝義 石井 紀子 岩澤 克恵 清水 桂子 小出 喜美枝 万歳 登茂子  
 志田 静 先崎 章 高島 良江 武田 大介 田中 栄子 本山 千恵子 中島 久美子  
 西田 勝 青木 円 和田 敏子 神谷 律慧 神山 悦子 細田 満和子 古閑 八枝子  
 鈴木 勉 中島 香 入江 清子 右田 洋子 柴崎 美穂 川野 美也子 山岸 すみ子  
 呉 明美 吉田 実 吉田 衣子 佐藤 明笑 小川 善道 一ノ瀬 純二 北條 代志江  
 北條 航 北條 飛帆 山田 純子 中澤 映子 中川 信子 石川 孝子 小島 真理子  
 保坂 勝子 内田 妙子 富田 博樹 石渡 和実 黒沢 久子 山河 正裕 國井 邦子  
 佐藤 千ヨ 上山 睦恵 柴崎 祐美 荒川 千秋 谷 みどり 坂本 智子 前田 晃子  
 中條 共子 鈴木 和子 薮下 誠子 小林 球記 多谷 光宏 久保田 美沙子  
 加藤 一男 金原 美智子

全国遷延性意識障害者・家族の会 斎藤プロダクション 青海社

※ 東京パイロットクラブ様より 10万円のご寄付を頂きました。  
 6月12日 南青山会館で寄附金贈呈式が行われました。10年以上、サークルエコーの活動を応援していただいています。長年のご支援、心より感謝申し上げます。



贈呈式後に記念撮影  
(東京パイロットクラブ様 HP より転載)

### ◎ 入会のご案内 「正会員」

入会金 1,000円  
 年会費 3,000円

### ◎ 今年度も賛助会費のご協力よろしくお願いたします。 年会費(4月～3月)1口 2,000円

郵便振替 口座記号番号 00180-0-546112 サークルエコー

### 編集後記

練馬区では今年度より高次脳機能障害者等中途障害者支援事業として、高次脳機能障害等を対象に中村橋ケアセンターで相談事業が始まりました。さらに、10月から通所訓練事業が区直営で開始され、委託で地域活動支援センターⅢ型もその後始まる予定ですが、こうした事業の対象が復職や復学が可能な比較的軽度な方に限られないかが現在焦点となっています。

Yamazaki

### サークルエコー連絡先

田辺 和子 〒206-0824 東京都稲城市若葉台 3-1-1 C-405 Tel/Fax:042-350-3292  
 谷口 眞知子(ナノ) 〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎 2193-1 Tel/Fax:048-956-2224  
 豊田 幸子(フレンズ) 〒489-0987 愛知県瀬戸市西山町 1-60-20 Tel/Fax: 0561-82-1498

編集人  
発行人

東京都稲城市若葉台 三―一―C―四〇五  
 脳損傷・高次脳機能障害 サークルエコー  
 東京都世田谷区砧 六―二六―二二―「定価は会費に含まれる」  
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価 百円